

リポートニュース

令和7年9月号 NO.280

乗用車の輸入関税は15%となった。税率が確定したことで、今後、各社は生産地の見直しやサプライヤーとの按分、価格転嫁といった対策を具体化していくとみられる。米国内の自動車マーケットがどうなっていくかは他国の関税交渉の行方にも注視されるが、同様に米国内大手のGMは米販売車の約5割をメキシコやカナダなどで製造しており、トランプ関税の影響は特に大きいと見られている。また多額の関税コストが発生している韓国からの輸入車も「需要が高い」とGMは米国内での販売を続ける意向を示している。高関税政策が米国内の新車需要やサプライチェーン(供給網)にどういう形で影響してくるかは予断がつかない状況である。・戦略しだいでは、日本車の販売拡大のチャンスかもしれません。

7/24 日刊自の一部記事抜粋

豆知識 トヨタ ジャパンタクシー NTP10、匠専用グレードのLEDヘッドライト、年式による相違点

前期 H29.10～R2.1	レンズ No「15-9」
後期 R2.1～	レンズ No「15-13」

※外観は同一ですので刻印による判別が最適です。



外観



後期

豆知識 スズキアルト HA37S (ガソリン車)、HA97S (HV車) R3.12～、ガソリン車、HV車のグレードの違いによるFバンパーの相違点

	グレード	相違点
ガソリン車	「A」、「L」	Fバンパーの上部にガーニッシュ取付穴が無い
HV車	「HV-X」、「HV-S」	Fバンパーの上部にガーニッシュ取付穴がある



ガソリン車



HV車

豆知識 日産 ノート E13(2WD)、SNE13(4WD) 年式によるフロントグリルの相違点

前期 R2.12～R6.1	全体が黒メッシュで網目状の形状
後期 R6.1～	デザインが横ラインの形状でカラーパネルが入る(横ラインがボディ色になる)



前期



後期

ファン付作業 充電中に発火事故多発 日刊自の記事から抜粋



トヨタ系ディーラー国立店で整備士が着用していたファン付作業着の充電中に発火し、車両1台と敷地500㎡が焼ける火災が発生した。製品評価技術基盤機構によると直近4年間リチウムイオン電池搭載の製品の発火事故は1860件発生。対策として①高温下に放置しない②衝撃を与えない③充電時に時々様子を見て、異常を感じたらすぐに充電や使用を停止する・・・ことなどを呼び掛けている。現場で最も大切な事は「人がいない夜間の充電を禁止、充電状況を監視する」等の対策が必要とのこと。

倉庫内の暑さ対策

商品棚が並ぶテント倉庫内の暑さ対策の一つとして扇風機を設置、一日中稼働しています。3棟あるテント倉庫内の2F部分は特に暑く、出荷頻度の多い商品は1Fに移動して、暑さを避けながら入出庫を行っています。・6月中旬から始まった猛暑、そして夏本番を迎える7月・8月・9月の暑さを想像するだけで汗が吹き出る思いです。



UVパテの活用に向けたデモンストレーション

LED使用により、パネルや塗装面に対して熱による影響を最小限に抑えられたことで、プラスチックパーツやバンパーなど熱に弱い箇所などにも安心して使用できる・・・ということで今回デモンストレーションをお願いしました。パテの乾燥時間を短縮することで、当日受注・当日発送のサービス拡大に繋がれることを期待しています。導入することで期待される効果をクリアできるか？ 慎重に見極めて結論を出す予定です。・UV-GUN (紫外線LEDライト) SGP-UVG,SGP-UVNS (株) イスコ



繋がる健康管理

5月に実施された定期健康診断の結果が送られてくる6月頃からは、産業医の健康相談を希望する従業員の数が増えます。同時に有機溶剤を取り扱う作業者の健康チェックなども行われ、また年度末に行なわれるストレスチェックの結果も産業医の問診を受ける対象になり希望者が増え続けています。H29年に始まった産業医による健康相談の当初は、相談を希望する従業員が少なく、産業医の方が時間を待たせていた時期もありましたが、徐々に健康に対する大切さが浸透しているようで、健康相談は盛況が続いています。

軽微な室内作業用アイスベスト 大人気！

猛暑の中、ハードな屋外仕事にはファン付の空調服の着用が必需品となっています。一方、軽微な室内作業用としてピッタリのアイスベスト(冷却ベスト)も販売されていて、当社の女性作業員の間で大人気です。3個の保冷剤を背中、両脇腹辺りに装着するだけのものですが、3時間程度の冷却効果があるので、午後の作業には交換用の保冷剤を用意することで暑さを緩和することが出来るようです。価格も交換用保冷剤を含めて5,000円前後の価格で手ごろの暑さ対策グッズとなっています。



「水性補修用塗料への切替え」着々と進む！

トヨタ系ディーラーでは、2025年までに水性塗料使用率100%を目指す方針のもと切替が着々と進んでいます。これまでネックとなっていた「乾燥時間問題」も塗料メーカーとブースメーカーの改良が進み、大幅な時間短縮が図られたことが導入を加速させました。その一因として乾燥に必要な「風の質」を変える研究が実を結び、乾燥時間の短縮に大きく貢献したといわれています。



社内の電話配線 総入れ替え

社内にある24台の内線電話機の総入れ替を機に、従来から使用していた古い全ての電話配線を撤去、また煩雑していたFAXや通信機器の回路もシンプルに配線を整理、交換機の入替、バッテリー交換など緊急時に対応できる対策強化、配線図の作成等も完了しました。さらに受信と同時にフロントのパソコン画面に電話番号と名前が表示される「見えてる君」ソフトのバージョンアップも済ませ、のびのびになっていた災害時に備えた通信面の「早期復旧の為の対策」を全て完了しました。



2025年1～6月の車名別盗難台数 警察庁発表

最も盗難台数が多かったのはランドクルーザーだった。前年同期より約3割増の765台と大幅に増えた。盗難台数は、盗難車手配がされた車名が明らかな車両を集計したもので、未遂などは含まれない。防犯対策として、ハンドルロックなどの固定器具やGOS追跡装置、車種を特定されないボディカバーなどの活用、駐車場のセンサーライト、防犯カメラの設置など複合的な防犯対策の必要性があるとした。車名別盗難台数：ランクル765台、プリウス289台、アルファード191台、レクサスRX141台、レクサスLX120台、クラウン107台、ハイエース97台、レクサスLS55台、ハリヤー50台、キャリイ43台。・該当車両を乗られる方はご注意ください。

